

世界銀行主催の UHC 推進イベントにおける鈴木大臣スピーチ (2024 年 4 月 18 日 (木))

バンガ総裁・テドロス事務局長、非常に有益な議論を有難うございます。皆さんの前で、UHC 促進に向けた日本の取組について紹介する機会を得たことを光栄に思います。

日本は、かねてより人的資本の開発及び持続的な成長の基盤として、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の重要性を強調してきました。また、UHC の実現のためには財務・保健当局の連携が不可欠として、2019 年 G20 大阪サミットに際し、初の「G20 財務・保健大臣合同会議」を主催しました。本日、財務・保健当局を含む多くの関係者が、UHC を議論するために一堂に会していることを大変嬉しく思います。

日本は、技術支援に対する資金貢献をはじめ、世銀・WHO と共に、途上国の UHC 達成に向けた取組を推進してきました。こうした取組を更に強化するため、世銀・WHO と連携し、「UHC ナレッジハブ」を 2025 年に日本に設立することを本日表明します。「UHC ナレッジハブ」は、UHC に係る知見の共有や、財務・保健当局の人材育成を支援します。世銀・WHO の知見を活用するとともに、少子高齢化の中で質の高い UHC を維持するための取組など、日本の経験も活かしていきたいと思えます。

世銀では IDA 第 21 次増資の議論が行われています。IDA は低所得国における UHC の主流化で重要な役割を果たしています。低所得国が医療システムの整備に必要な十分な財政資金を確保することは重要です。IDA 第 21 次増資においても、政策の優先課題の 1 つとして UHC の推進が維持されることを期待します。

本イベントで、各国の課題や取組について闊達な意見が交わされることを楽しみにしています。日本としても、本日の議論も踏まえて、引き続き UHC の国際的な推進に貢献していきます。有難うございました。